

法務省委託  
平成26年度  
人権啓発ビデオ

朗読

審査員長からの  
メッセージ 5分

全国中学生  
人権作文コンテスト  
中央大会審査員長(作家)  
落合恵子



濱田龍臣 (俳優)



大和田南那 (AKB48)



本当の  
国際化とは

7分30秒

電車内に  
咲いた、  
笑顔の花

7分30秒



立ち止まる

8分

NO!と言える  
強い心をもつ  
～ハンセン病問題～  
から学んだこと

8分30秒



絆

6分30秒

# 未来を拓く5つの扉

～全国中学生人権作文コンテスト入賞作品朗読集～

絵と  
アニメーション  
でみる

活用の手引

全46分

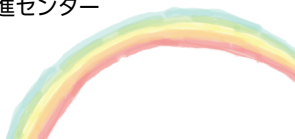
字幕／副音声入り

企画

法務省人権擁護局  
公益財団法人 人権教育啓発推進センター

制作

株式会社 桜映画社



## 活用の手引 目次

このビデオのねらい／ 全国中学生人権作文コンテストについて	3
ビデオの内容・構成	4
朗読者紹介／審査員長紹介	5
<b>「本当の国際化とは」</b> 原文	6-7
<b>「本当の国際化とは」</b> 視聴のポイント	8
<b>「電車内に咲いた、笑顔の花」</b> 原文	9-10
<b>「電車内に咲いた、笑顔の花」</b> 視聴のポイント	11
<b>「立ち止まる」</b> 原文	12-13
<b>「立ち止まる」</b> 視聴のポイント	14
<b>「NO!と言える強い心をもつ」</b> 原文	15-16
<b>「NO!と言える強い心をもつ」</b> 視聴のポイント	17
<b>「絆」</b> 原文	18-19
<b>「絆」</b> 視聴のポイント	20
ワークシート	21
授業展開例	22-23
相談窓口と人権ライブラリーのご案内	24

### 必要な機材等

テレビモニターまたは、プロジェクターとスクリーン  
DVD プレーヤー（推奨）またはパソコン

## このビデオのねらい

全国中学生人権作文コンテストでは、次代を担う中学生が、身の周りで起きたいろいろな出来事や自分の体験などから、人権について考えています。このビデオでは、入賞作品の中から5編の作文を朗読して、アニメーションやイラストで紹介します。

中学生が作文の中でつぶやいている言葉に、あなたも耳を傾けてみてください。それが、きっと、新しい明日への一歩につながっていくでしょう。

主な対象者：中学生以上～一般

## 全国中学生人権作文コンテストについて

法務省と全国人権擁護委員連合会は、中学生が豊かな人権感覚を身に付けることを目的として、昭和56年度から「全国中学生人権作文コンテスト」を実施しています。

※対象：中学校に在学する生徒（外国人学校に在学する者で中学生に準ずる生徒を含む）及び特別支援学校の中学部に在学する生徒

※作文の内容：日常の家庭生活、学校生活、グループ活動あるいは地域社会との関わりなどの中で得た体験等を通じて、基本的人権の重要性、必要性について考えたことなどを題材としたもの。

※応募原稿：400字詰原稿用紙5枚以内

人権作文コンテストは、法務局・地方法務局ごとに地方大会を実施し、地方大会の代表作品が中央大会に推薦されます。そして、推薦された作品について中央大会で審査が行われ、優秀な作品が表彰されます。



●全国中学生人権作文コンテストについては

<http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken111.html>

## ビデオの内容・構成

全編再生 41分

- **導入**  
(全国中学生人権作文コンテスト及び本ビデオの趣旨) …… 1分30秒
- **本当の国際化とは** …… 7分30秒
- **電車内に咲いた、笑顔の花** …… 7分30秒
- **立ち止まる** …… 8分
- **NO!と言える強い心をもつ**  
～ハンセン病問題から学んだこと～ …… 8分30秒
- **絆** …… 6分30秒
- **結び** …… 1分30秒

### 各作品再生 (導入+各話+結び)

本当の  
国際化とは  
7分30秒

電車内に  
咲いた、  
笑顔の花  
7分30秒

立ち止まる  
8分

NO!と言える  
強い心をもつ  
～ハンセン病問題  
から学んだこと～  
8分30秒

絆  
6分30秒

### 審査員長からのメッセージ

5分

- ◆メニュー画面で「字幕」「副音声」の有無を選択できます。
- ◆このDVDには本冊子とチラシのPDFファイルが収録されています。  
パソコンで開いてご利用ください。

## 朗読者紹介

はま だ たつ おみ  
**濱田龍臣** (俳優)

2006年に子役としてデビュー。  
大河ドラマ『龍馬伝』で坂本龍馬（福山雅治）の幼少役や、実写版『怪物くん』で市川ヒロシ役、映画『ガッチャマン』で甚平役を演じる。  
2010年10月「ゴールドドリームアワード 2010」で、金の卵賞を受賞。



おお わだ な な  
**大和田南那** (AKB48)

AKB48 チームBのメンバー。  
主演を務めたドラマ『セーラーゾンビ』（テレビ東京系）や、ミュージカル『AKB49～恋愛禁止条例～』での透明感あふれる演技で存在感を示す。AKB48の次世代エースとして、これからの活躍が最も期待されている注目株の一人。

## 審査員長紹介

全国中学生人権作文コンテスト  
中央大会審査員長 (作家) **落合恵子**

(株)文化放送アナウンサーを経て作家活動に入る。家族の問題、社会的な問題、教育問題、環境問題などを、誰にとっても、わかりやすく考えられる「社会に共通な問題」としていくことに努め、小説の形で表現し続ける。また、女性問題や子どもの人権問題を世界に共通するテーマとしての視点で講演している。執筆、講演活動だけでなく、子どもの本の専門店「クレヨンハウス」と、女性の本の専門店「ミズ・クレヨンハウス」を主宰。



# 本当の国際化とは

広島県 三次市立布野<sup>ふの</sup>中学校 2年 丸川<sup>まる かわ かい と</sup>海音

最近のニュース番組を見ていて、とてもショックを受けたものがあった。それは、「ヘイトスピーチ」と呼ばれるものだ。「ネトウヨ」と言われる急進派右翼による在日韓国・朝鮮人を罵倒するデモのことだそう。数百人規模のデモ隊が、聞くに堪えない罵詈雑言を叫んで都心を行進していた。この日本でこんな事が起きているなんて、とても信じられなかった。それまでも、中国や韓国の反日デモをニュースで見る機会があった。踏みつけられる顔写真や引き裂かれる日本の旗を見て、「なぜこんなことを！」と怒りを感じた。しかし、ヘイトスピーチを見た時感じたのは「やめてほしい」という悲しみだった。

その時、二年前のある出来事が脳裏に浮かんだ。それは、多くの客で混雑するコンビニエンスストアでの出来事だ。突然の怒鳴り声に、店を出ようとした僕の足は止まった。

「うるさい！ どうせ店のことなんかわかってないだろう。外国人は黙っておけ！」

怒鳴られていた店員さんには見覚えがあった。外見からは日本人としか思えなかったが、少したどたどしい日本語から察すると、外国の人だったのだろう。これまでに何度か対応してもらった店員さんだったが、僕が落とす釣りを嫌な顔一つせず拾ってくれ、丁寧な対応で感じのいい人だった。そんな店員さんが、若いスーツ姿の男性客に怒鳴られていた。他の客の会話を小耳にはさむと、商品が品切れだったらしい。明らかに店員さんの過失ではない。怒鳴り散らした男性客が憤然と店を出て行った後、僕も呆然として店を出た。その騒動のさなか、何もなかったように店を出て行く客も多かった。

帰宅後、やっと我に返り考えてみた。男性客は、他の日本人の店員でも同じように怒鳴ったのだろうか。店員さんの名札を見て、「外国人は…」という言葉が出たのだろうか。一生懸命説明しようとする店員さんに対して、「黙っておけ」という態度は、外国人だから説明なんてできない、と決めつけていたからだろうか。そして、店員さんに非がないのは明らかなのに、他の客は、皆、無関心で、さっさと店を出て行ってしまったという、後味の悪い思いは何なのだろう

うか。

そのときふと、自分はどうだったのか、ということに気づいた。自分だって、ただの傍観者だった。そして、今平気な顔をして買って帰ったジュースを飲んでいる。子供だから何も出来るわけがない、と考えていていいのだろうか。責められ、罵られていた店員さんから見れば、あの男性客に何も言えない、無様な日本人の一人として映ったに違いない。

その後の店員さんがどうなったのかはわからないが、数日後、その店に出かけた時には姿はみえなかった。そしてその後、その店員さんを見かけたことは一度もない。

この出来事は、あの男性客も、その場にいた客も思い出すことはきっとないのだろう。僕自身も、今回のニュースを見るまでは、記憶の片隅に追いやられていた出来事だった。でもあの店員さんはどうだろう。一生その人の心の傷として残り続けているのではないだろうか。そしてもしかしたら、罵倒した日本人や、何の関心も示さなかった日本人に対して、嫌悪感を抱いて生きているのではないだろうか。もし、あの時、誰かがあの人をかばう発言をしていたら、誰かと言わず、僕がそういう行動をとっていたら、あの人日本人への感情は変わっていたのではないだろうか。

ヘイトスピーチをする人や、反日デモ隊の人たちが、どんな気持ちなのかは、僕には想像することはできない。歴史の勉強をしっかりしてみないと、様々な思想があることもわからないと思う。

しかし、今の僕にもはっきりとわかることがある。それは、罵られ、軽蔑の対象となっている人達に、何ら罪はないということだ。一人一人の人間の尊厳は、生まれた国が違って何も変わることはないはずだ。同じ人間として、命の重さは同じであり、差別されていい人間などいないはずだ。

これから僕は、小さな町での生活から、少しずつ広い世界へとコミュニティを広げていく。その中で、様々な国の人と出会うだろうし、様々な考え方の人と出会うだろう。そのときに、偏った価値感や、国籍などの情報にとらわれることなく、同じ人間として、その人の内面をとらえることのできる幅広い心の持ち主でありたいと思う。二年前のあの時店員さんを救えなかった僕が、ここに本当の国際化とは何かを考え、行動できる大人に成長していくことを決意したい。

## 視聴のポイント

本作文は、外国人に対するヘイトスピーチの問題と、作者の身近に起こった事件を関連付けて考察しています。

作文中において、作者がニュース番組で見聞きしているような、特定の民族や国籍の人々を排斥する言動は、人々に不安感や嫌悪感を与えるだけでなく、人としての尊厳を傷つけたり、差別意識を生じさせる恐れがあり、容認できるものではありません。

私たち一人一人が、外国人に対する態度について考えるとともに、文化等の違いや多様性を認めて尊重し、外国人に対する偏見や差別をなくしていく必要があります。

作者が結びで述べているように、偏った価値観や、国籍などの情報にとらわれることなく、同じ人間としてその人の内面をとらえ、互いの人権を尊重し合う社会を共に築いていきましょう。



## 考えてみよう

- 男性客は、店員さんが日本人だったとしても、同じように怒鳴ったのだろうか？
- 男性客をとがめたり、店員さんをかばう人が誰もいなかった理由
- 怒鳴られた店員さんが姿を見せなくなった理由



# 電車内に咲いた、笑顔の花

大阪府 河内長野市立加賀田中学校 2年 竹内萌里

それは、私が電車に乗っていた時の事。一人のおばあさんが電車に乗ってきた。足を引き摺るように歩いていたため、瞬時に足が悪いのだと理解した。その時は、ちょうど通勤ラッシュの時間帯であり、車内はととても混雑していた。おばあさんは手すりにつかまりながらやっとのことで座席付近まで歩いてきたが、おばあさんの目の前に座っていた若い男性は、チラリとおばあさんの方を見、また手元のスマートフォンに目を落としたのだ。

それを見て、私は少し苛々した。譲らなければならないと分かっているはずなのに。私が普段、電車に乗るときは殆ど満員で、座れることはまずないが、座っている時に老人の方や、妊婦さんが乗ってきたら、できるだけ譲るようにしている。確かに、立つのは疲れるし、優先座席に座っているのではないのだから、別にいいじゃないか、とも思う。先程の若い男性だけでなく、世の中全体がそんな空気になっている。自分さえ良ければ、それでいいじゃないか、と。しかし、本当にそれでいいのだろうか。

私は結局、そのモヤモヤを抱えたまま、目的地に着いてしまった。電車内のアナウンスを小耳に挟みつつ、人混みをかき分け、ドアへと近づく。ふとおばあさんのことが気になり、そちらを見ると、おばあさんも降りようとしていた。だがやはり足を引き摺りながらこの人混みを進むのはかなり難しい。

その時、私の頭にこんな事が浮かんだ。おばあさんの手助けが出来ないだろうか、と。しかし、せっかくドアの近くまで苦労して歩いてきたのに、また戻るのか、という気持ちも同時に起こった。でも、このままでは、私はさっきの若い男性と同じになってしまう。やはり、行かなければ。私はそう決心し、再び人混みの中へと入ってゆく。「まもなく〇〇駅に到着します……」というアナウンスが耳に届く。急がなければ。やっとのことでおばあさんに近づき、人見知りな性格を押し殺して「大丈夫ですか」と声をかけた。すると「え……？」とおばあさんは言う。おばあさんの顔には疑問が浮かんでいた。私は意味が通じなかったのかと思い、もう一度言い直した。「荷物も多いですし、お手伝いします。」おばあさんは「いいの……？」とまた

疑問を浮かべながら言う。「勿論です。早くしないとドアが閉まってしまいます。急ぎましょう」私はおばあさんの荷物を肩にかけた。おばあさんは恐る恐る、という様に私の後に続く。

だが……。プシューと音がして、ドアは閉まり始めた。間に合わなかったのだ。後ろを見ると、おばあさんの申し訳なさそうな顔が見える。私が何か言おうと口を開きかけた瞬間――。

「待ってくれ！」

男性の声が車内に響き渡った。その人は、ドア近くに立っていて、ドアから身を出して車掌さんに声をかけてくれたのだ。そして、こちらを向いてこう言った。「ゆっくりでいいですから、安全に……」すると、周りの人たちも次々に道をあげ始めた。「大丈夫ですか。」「焦らなくてもいいですよ」おばあさんに向けられる、優しい言葉の数々。私はその時のおばあさんの顔が忘れられない。驚愕と喜びが入り混じったような、美しい笑顔だった。

私たちは無事ホームまでたどり着き、電車のドアは閉まった。おばあさんは何度も何度も扉の向こうの人たちに頭を下げ、彼らにもこやかに手を振っていた。電車が行ってしまったあと、おばあさんは私の方を向いて、また頭を下げた。

「本当にありがとうございます。あなたに声をかけてもらった時、奇跡がおきたのかと思いました。あなたのお陰です。こんなに優しくされたのは初めてだわ。」

そう言っておばあさんは嬉しそうに駅を去っていった。私も、おばあさんに笑顔が戻って嬉しかった。

でも……。おばあさんの『こんなに優しくされたのは初めて』という言葉が、いつまでも私の頭から離れなかった。おばあさんはこれまでどんな扱いを受けてきたのだろうか。そして、おばあさんに声をかける前に、少しでも『面倒くさい』と思った自分がいた事を恥ずかしく思った。

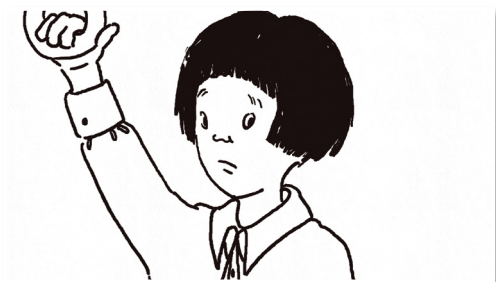
たった一人の、少しの行動が、皆を動かす。恥ずかしくても、面倒くさくても、行動するべきだと、私は思った。たとえ周りがどう言おうと、善いことを貫き通すべきだ。大人と子供との境目である中学生という時期。もう一度、善悪を真剣に考える機会を皆にも持ってもらいたい。私たちの未来をどうするかは、私たちが決めるのだから。

私は、おばあさんの笑顔を思い浮かべながら、駅の出口へと向かった。

## 視聴のポイント

本作文は、勇気を出しておばあさんの手助けを決意した作者の行動が、周囲の人々に影響を与え、配慮や優しさのあふれる花咲く空間を生み出したことについて振り返り、はじめにためらいはあっても、それを越えて行動を起こすことの意義について訴えています。

日常において、他者への思いやりの心が希薄になってきたと感じることはありませんか。相手の気持ちを考えることや、思いやることの大切さを一人一人が気づくことにより、誰もが個人として尊重される、平和で豊かな社会が実現されるのではないのでしょうか。



## 考えてみよう

- 「私」が、再び人混みをかきわけておばあさんの手助けをする決意をした理由
- ドア付近の男性客が車掌さんに声をかけてくれた理由
- 周囲の人々が次々におばあさんに配慮する態度をとった理由

# 立ち止まる

東京都 小金井市立小金井第二中学校 2年 くま がい みず き 熊谷瑞生

「右目の視力が低く、内斜視になっています。けれどまだ成長段階ですから、メガネで矯正できますよ」

眼科医からそう告げられた時、僕は五歳で「斜視」の意味も分からず、母から与えられたメガネを新しいおもちゃでももらったように、喜んで掛けていた。

問題は小学校二年の時に起こった。

校庭で遊んでいると中学年の男子生徒が数人近寄って来て、突然僕のメガネを取り上げると、宙に投げるようにパスを繰り返して返してくれなかったのだ。そして最後に受け取った男子生徒が地面にメガネを叩き付けた。

メガネは、弦の部分が曲がり、レンズも外れて転がっていた。何が起きたのか分からなかった。

壊れたメガネをティッシュに包み、家に持ち帰って母に渡したとき、理由を聞かれたが本当のことを言えず、友達と遊んでいて壊してしまったと嘘をついた。

それからも中学年は、僕をみつける度、メガネを取り上げたり、頭をこづいたり、いきなり突き飛ばしたり、ことあるごとに嫌がらせをした。それを見ていたクラスメートも、だんだん面白がるようになり、誰かが僕のことをある名前で呼び始めた。

「メガネ猿」

クラスメートのからかいが増すごとに酷くなり、僕は学校に行くのが怖くなった。

ある日、母が仕事に出た後を見計らい、ランドセルを背負ったまま家に帰ると自分の部屋にこもった。

どうして、こんなことになったのだろう。メガネをしているから？僕が「斜視」で顔が変だから？胸の奥が熱くなり、鉛のような重いものがせり上げてきた。

その日、登校してこない僕を心配して、担任の先生が家に来てインターホンを鳴らし続けた。二月の寒い日で、風が冷たく、雨も降っていた。それでも先生は何どもインターホンを鳴らし続けた。連絡を受けた母も会社を早退して帰って来て、先生と一緒に家の扉を開けた。僕をみつけた先生は「よかった。家にいてくれて。事故にあったか、悪い人に連れていかれたかと思ったよ。明日は学校にちゃん

と登校してね」と優しく笑った。

先生は一言も僕を責めたりしなかった。

あくる日、先生から学校に行かなかった理由を尋ねられ、僕は本当のことを話した。

「メガネ猿」、と毎日友達からからかわれるのが辛かったこと。中学年の男子生徒が怖かったこと。話終わると、あのせり上げていた鉛の塊が、僕の口から、転がり落ちた気がした。

「僕がメガネをかけているから、変だから、みんなが意地悪をするのですよね」

すると先生は、頬を紅潮させて言った。「違うよ。瑞生君は何も悪くない。人と違うところがあっても何も悪くない。メガネをからかう友達がいけないんだよ。」

先生の言葉を聞いた時、何故だか前がくもって見えなくなった。レンズには僕の涙がいくつも付いていた。

今の僕なら「メガネ猿」と呼ばれても、聞き流せるし、猿の真似くらいして相手を笑わせることもできる。

時々、「そんなことくらいで傷ついてどうするの。もっと辛いことをされたり、言われたりする人がこの世には大勢いるんだよ」と言う人がいるが、僕は違うと思う。人の心の痛みは他人と比べることが出来ない絶対的なものだ。その人が辛いと感じるなら、心のバケツが一杯になってしまっているのだから、より大きなバケツになるには、その人のこれからの経験が心の筋肉を強くするまで、時間がかかるものだと思う。

言葉は、時にその人の心を深く傷つける。特に人と違う点や、人とは劣っていると思っていることを、何度も繰り返し集団の中で言われているうちに、傷は深く、深くなる。

言葉とは、他人にものを伝える上で大切な手段にも関わらず、何も考えずに発した一言で相手の胸の中に冷たく重い鉛の塊をも作り出してしまふほど、猛毒になり得るのだ。

一方で、言葉は他人を救う暖かい毛布にもなる。

あの時先生が「瑞生君は何も悪くない」と言ってくれた言葉は、僕の胸に詰まった重く冷たい塊を少しずつ溶かしてくれた。

十四歳になって僕は思う。人と話す時、一度「立ち止まろう」と。これから僕が相手に言う言葉は毒になってしまわないか、それともほんの少しでも相手の気持ちを和らげたり、楽しくさせたりできるだろうか。毛布のような言葉で、相手の冷え切った感情を温めてあげることができるだろうか。

僕は立ち止まって、一呼吸おき、今日も友人や家族と言葉を通して、強くて優しい結びつきを築けていけたらと思う。

## 視聴のポイント

本作文は、上級生のいじめをきっかけとして、クラスメイトからもメガネをからかわれるいじめの対象となってしまった作者が、心配して自宅を訪問した担任の先生の言葉によって、いじめを克服した経験を綴っています。作者を傷つけたのは同級生の言葉ですが、作者を救ったのも先生の温かい言葉でした。

私たちも、これから相手に言う言葉で相手の気持ちを和らげたり、楽しくさせたり、毛布のように、相手の冷え切った感情を温めてあげることができるか、一度立ち止まって考えてみるのが大切なのではないのでしょうか。



## 考えてみよう

- 「僕」はメガネをしていて変だから、いじめのターゲットにされたのだろうか？
- 心配して自宅に来てくれた先生が、「僕」を一言も責めなかった理由
- 「猛毒になる言葉」や「暖かい毛布」になる言葉とは、具体的にどんな言葉だろう？

# NO! と言える強い心をもつ

～ハンセン病問題から学んだこと～

広島県 学校法人<sup>えいしん</sup>盈進学園盈進中学校 1年 後藤<sup>ごとうみずき</sup>泉稀

## 1・金さん、絶対また来ます

瀬戸内海の小島にある岡山県の長島愛生園。そこに、金泰九（キム・テグ）さんという元ハンセン病患者の方が暮らしている。私の所属しているボランティアと人権・平和を研究するクラブは、金さんと17年間交流し、学習を続けている。私は先日初めて金さんとお会いし、交流させていただいた。

先輩方に「金さんってどんな人ですか」と質問したら、必ず同じ答えが返ってくる。「やさしくて、笑顔が素敵な人だよ。」実際、私も金さんの笑顔に包まれてとても幸せだった。でも、金さんの表情がきりっとすることもあった。「差別や偏見をなくすために私たちに望むことは何ですか。」その質問に、金さんはいつもこう答える。「正しく知って、正しく行動する。」これまで、社会の厳しい差別と偏見の中で生きてきた人の答えなのだと思う。

みんなが金さんの不思議な魔法にかけられたように、自然と笑顔を浮かべていた。「先輩方が言っていたことってこれのことなんだ。」私もいつの間にか、金さんのことが大好きになっていた。そして、金さんにまた会いたい！あたたかさに触れたい！と強く思った。

## 2・忘れない、あの時の苦しみ

「らい予防法。」それは金さんを含め、多くのハンセン病患者を苦しめた終生絶対隔離法。「ハンセン病になった。」それだけで家族やふるさとを奪われた。子どもは学校で、兄弟姉妹までもいじめられた。発病し、収容されると家族やふるさとに帰ることが許されないのだ。金さんは語る。「大阪に残してきた妻が亡くなくても帰してもらえなかった。それが一番辛かったなあ。」その時私の頭には、大好きな家族の顔が浮かんだ。どうして大事な家族と一生別れなければならなかったのか…。胸がぎゅっと苦しくなった。こんなにも苦しい思いをした人がいたことを私は知らなかったのだ。今、そのことを学習した私は、この過去を深く胸に刻み、忘れず、私たちが後世に伝えていかななくてはならないと決意した。

## 3・いじめSTOP～私がやるべきこと～

ハンセン病になった人は差別や偏見に苦しみ傷ついてきた。では、そんな人は、現在いないのか。いや、今の時代にもあることだ。「い

じめ。」これも許されない差別。私はいじめによって、自ら命を絶った人があるというニュースを聞くにつけ、私にも無関係なことではないと思う。人を無視する、悪口を言う。これらがいつかいじめになり、人の命を奪ってしまうことにつながると思う。

私は周りに流される性格だ。やってはいけないと分かっているが、なかなか自分でストップをかけられない。しかし、このままだと私が人を傷つけてしまう。だから、自分にも友達にもNO!と言える真の勇気を持たなければならないと思う。ちょっとした悪口、間違っただけの知識や行動が差別を生むのだから。

私は、そう考えてハンセン病問題を考えてみた。差別を広げたのは、「らい予防法」をつくった国が、「ハンセン病は恐ろしい病気。」と間違っただけの宣伝をしたからだ。例えば、患者が歩いた後は、消毒で真っ白にする。それを見た人は「恐ろしい病気」と思う。周りの人は鼻をつまんで歩く。好きで病気になったわけではない。それなのに、犯罪者のように扱われた。こうして差別はつくられた。

しかし、私は、差別した責任は国だけではないと思う。市民が、国の間違っただけの情報を信じ、自らに差別を宿したからだ。当時の人たちは、それに気がつくことなく差別を続けたから、あのような悲しい出来事が起きてしまったのだ。間違っただけの情報はとても怖く、恐ろしい。また、社会の差別をなくすことはとても難しく、私一人では出来ないことだと思う。しかし、まず「自分から行動する」ということが大事だ。だから私はまず、いじめの入り口である人の悪口をなくすことから始める。

#### 4・人と人をつなぐもの～私の決意～

私は小学校の時、先生に「人間が生きるために絶対に必要なもの」を教えられた。夢？希望？色々考えた。しかし先生は、「もっと大事なものだよ」と繰り返した。やっと先生の口から出てきた言葉。それはたった一字。「愛」だった。先生がこんな話をしてくれた。

「人はね、他者から愛をもらわないと生きていけないのだよ。」そうか…。私が今を生きられるのは、多くの人から愛をたくさんもらい、支えられているからなのだ。目には見えないけど、確かに愛をもらったという時は何かを感じる。ほっとしたあたたかい何かを。

そうか。金さんの部屋で、そこにいたみんなが笑顔になったのは、金さんの私たちへの愛があったからなのだろう。金さんが言っていた。「こうやって、みんなが会いに来てくれるから幸せだよ。」これが、金さんの愛だったに違いない。私も、金さんのように、たくさんの人と愛でつながる人間になりたいと思った。そのために、周りに流されず、自らの意思でNO!と言えるようになると決意した。



## 視聴のポイント

この作文では、クラブ活動で元ハンセン病患者の方と交流することになった作者が、元患者の方の愛情や優しさにふれて感動するとともに、今まで社会から厳しい差別や偏見の目を向けられてきたという事実を知ります。また、学校生活においても、いじめという名の差別が存在しており、この2つの問題は根底では同じであることに気づきます。そこで、自らの意思でいじめや差別にNO!と言えるようになると決意します。

差別をなくすためには何が必要でしょうか。元患者の方は、作文中で、「正しく知って、正しく行動する。」ことだと答えています。

ハンセン病患者・元患者やその家族の方々が偏見や差別で苦しむことがないように、正しい知識と理解が求められています。



## 知っておこう

### ●ハンセン病とは

- ・細菌による感染症
- ・感染したとしても発病することは極めてまれ
- ・発病しても、早期に発見して適切に治療すれば後遺症も残らない
- ・患者・元患者の方は差別や偏見に苦しんできた

## 考えてみよう

- 差別や偏見をなくすためには何ができるだろう？

## 絆

福岡県 九州朝鮮中高級学校 中級部 3年 チェヒョンギ 崔玄祺

大人は皆、同じ言葉をぼく達に発した。

「ちゃんと全員でフォローしてやらんね。」

ラグビーをするぼく達にとって、それはチームプレーとして当たり前のことだけど、その言葉には違う意味も込められていた。

健太のことだ。

健太には右手首から先がない。生まれつきだとぼくは聞いた。病気のせいであんなに遅い。だから成長も遅い。

健太とは小学校の時から同じラグビースクールで共にプレーしてきた。体も小さく、体重も軽い健太だが、厳しく辛い練習に弱音も吐かず、寒い日も暑い日も一緒にラグビーボールを追いかけてきた。

自分で出来ることは自分でやる。ぼく達も、そんな健太を当たり前のように待つ。手が不自由だからと特別扱いなど決してしなかった。だから、健太のミスには遠慮なくダメ出しもするし、本気で言い合いになり最後はケンカになることもあった。健太は言い出したら引かない。小さな体で喰いついてくる。どんなに言い争うことがあっても、練習や試合が終われば、ぼくも健太も笑顔に戻るのだ。

中学にあがってからの健太は、病気のせいであんなに背骨が湾曲したまま成長しているようだ。

痛みとの闘いが始まった。顔をゆがめて、悔し気にグラウンドの隅で練習を見学する健太の姿を見ることが多くなった。

それからは、グラウンドだけの健太ではなく、身の回りの細々したことも手助けするようにと、周りの大人達は以前にも増して言うようになった。

それは本当に健太の望んでいることなんだろうか…。

健太が頼みもしないのに、彼のやるべきことを先取りした時の、少し淋しそうな健太の「ありがとう…」をぼくは知っている。大人達の心配も分かるが、ぼく達が必要以上に健太を手助けすることは、彼を少しずつキズつけて、彼の居場所やすべきこと、そして生きる力をも奪っているようにしか思えないのだ。

ただ、このことを健太本人に面と向かってたずねたことはない。

でも、ぼくにはわかる気がする。共にグラウンドを走りまわり一つ

のボールを追いかけて、パスをつなぐと健太の考えていることが。

今年の梅雨明けを待たずして、ぼく達は夏のジュニアラグビー福岡県大会で敗退した。

どしゃぶりの試合が続いた中で、こんな場面があった。一進一退の激しい攻防が続く中で健太にパスがつながった。その瞬間、ボールは健太の手からこぼれ落ちた。

「ノックオン」

嫌な空気が流れてもおかしくない場面だった。だが、次の瞬間ぼくは死にもの狂いで次の展開へと走り出していた。『健太が落としてしまったのなら仕方ない。あいつが中学三年間、絶対に妥協することなく常に全力でラグビーに取り組んできたことは他の誰よりも知っている。だから必ず取り返してやろう。』

後になって、チーム全員が同じ気持ちで駆け出していたことを知り、嬉しかった。

それは決して健太の右手が不自由だからではない。かけがえのない大切な仲間だからだ。

県大会のノーサイドの笛がグラウンドに響きわたった時、小さい頃から紡いできたぼく達のチームは解かれ、高校で新たなチームへと別々の道を進んでゆくことになった。小さい頃から通っていたラグビースクールの引退式を終え、皆で遊びながら進路のことを健太と話し合っていた時、ぼく達の前で言った。

「高校でもラグビーするよ。」

決してゆらぐ事のない決意だった。

健太とパスをつなげばわかる、本当に大切なことが。

## 視聴のポイント

本作文は、中学校の卒業を控えて、小学生のときから同じ地域のラグビースクールでプレーしてきた「健太」との今までを振り返っています。

中学生になってから、手に障がいを持つチームメイトの「健太」を、周囲の大人たちが「もっと手助けをするように」と言うようになり、作者はそれが「健太」を傷つけ、彼の居場所や生きる力を奪っているように感じます。

結びの「健太とパスをつなげばわかる、本当に大切なことが。」で作者が言いたかったことは何か、考えてみましょう。

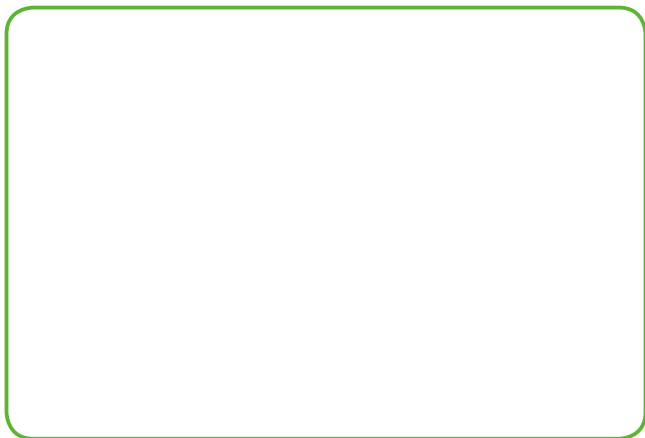


## 考えてみよう

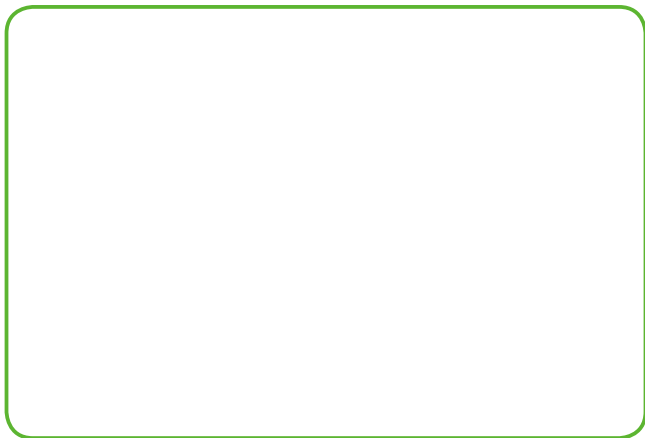
- チームメイトのみんなが「健太」を手が不自由だからと特別扱いしなかったのはなぜだろう？
- 自分のすることを先取りされたときに「健太」が「ありがとう…」というときの気持ち
- 健太とパスをつなげばわかる「本当に大切なこと」とは、何だろう？

## ワークシート

- ビデオをみて思ったこと、考えたことを書きましょう



- あなたが普段、身の周りで「人権」について考えたことを書きましょう



# 授業展開例：「本当の国際化とは」

時間		項目	内容	留意点
0'00	1 分間	はじまり	●入室～自己紹介	
1'00	4 分間	導入	●授業の流れの紹介 Q:「人権作文コンテスト」について知っていますか？	
5'00	11 分間	ビデオ視聴	●「本当の国際化とは」を再生	
16'00	5 分間	話し合い ①	●参加者の意見を聞く Q:男性客は、店員さんが日本人だったとしても、同じように怒鳴ったのだろうか？	◆参加者の意見を板書する
21'00	5 分間	話し合い ②	●参加者の意見を聞く Q:男性客をとがめたり、店員さんをかばう人が誰もいなかった理由	◆参加者の意見を板書する
26'00	5 分間	話し合い ③	●参加者の意見を聞く Q:怒鳴られた店員さんが姿を見せなくなった理由	◆参加者の意見を板書する
31'00	5 分間	ビデオ視聴	●「審査員長のメッセージ」を再生	

これは、「本当の国際化とは」を題材に、授業時間50分を想定した展開例です。  
 全体の時間や参加人数など、状況に応じて変更してください。

時 間		項 目	内 容	留 意 点
36'00	12 分間	まとめ	<p>●振り返り</p> <p>Q:ビデオをみて、思ったこと、考えたこと</p> <p>Q:あなたが普段、身の周りで「人権」について考えたこと</p>	◆各自ワークシートに記入させる
48'00	2 分間		●相談窓口の確認	<p>◆相談窓口</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなの人権 110番(全国共通) 0570-003-110</li> <li>・子どもの人権 110番(全国共通) 0120-007-110 <small>通話料無料</small></li> <li>・インターネット人権相談窓口</li> </ul>
50'00		終了		

# 法務局・地方法務局 人権相談窓口

みんなの人権 110 番 (全国共通)

 ゼロゼロみんなの ひゃくとおばん  
**0570-003-110**

子どもの人権 110 番 (全国共通・通話料無料)

 ゼロゼロ なのの ひゃくとおばん  
**0120-007-110**

女性の人権ホットライン (全国共通)

 ゼロ ナナゼロの ハートライン  
**0570-070-810**

- 一部の IP 電話からは接続できません。
- 受付時間 平日午前 8 時 30 分から午後 5 時 15 分まで

インターネット人権相談受付窓口 24 時間 365 日相談を受け付けています。

インターネット人権相談



## 人権ライブラリー

人権に関する資料や映像作品を借りたい方、お探しの方、人権に関する視察・研修や打合せスペース（無料会議室）をお探しの方は、人権ライブラリーをご活用ください。遠方の方でも、郵送等による貸出しを行っています。詳細は下記までお問合せいただくか、人権ライブラリーのホームページをご参照ください。

人権ライブラリー ※公益財団法人 人権教育啓発推進センター併設

〒105-0012 東京都港区芝大門 2-10-12 KDX 芝大門ビル 4F

TEL : 03-5777-1919 FAX : 03-5777-1954

Eメール library@jinken.or.jp

ホームページ <http://www.jinken-library.jp/>

開館時間 午前 9 時 30 分から午後 5 時 30 分まで（土日、祝日、年末年始は休館）

人権ライブラリー

※この人権啓発ビデオは、動画共有サイト YouTube の法務省チャンネルで視聴可能です。

法務省チャンネル